

専修大学 Siデータサイエンス
教育プログラム(応用基礎レベル)

自己点検・評価報告書

2025(令和7)年度

専修大学 数理・データサイエンス・AI 教育

自己点検・評価実施委員会



1 自己点検・評価の実施体制等

専修大学では、令和5年度以降入学者を対象として、ビッグデータとAIが駆動する超スマート社会を生き抜く力を身につけ、社会の諸課題を解決する手段の一つを養うことを目的として、「Si データサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）」（以下、「応用基礎レベル」という。数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）に認定）を全学部で開始した。令和6年度からのアンケート結果の変化を確認するため、令和6年度に引き続き「基礎演習S」および「修了能力認定S」の履修者について検証を行うこととした。さらに、令和7年度からは、基礎リテラシーレベルと応用基礎レベルの共通科目である「情報入門2」、「情報基礎II」、「情報システム入門」、「統計入門」および「日本語情報処理2」の履修者を対象に、アンケートを実施した。

同プログラムは令和7年度も継続して以下の実施体制の下、自己点検・評価活動を実施した。

役割	委員会等
プログラムの運営責任者	専修大学数理・データサイエンス・AI教育運営委員会
プログラムの改善・進化	専修大学数理・データサイエンス・AI教育運営委員会
プログラムの自己点検・評価	専修大学 自己点検・評価委員会 数理・データサイエンス・AI教育自己点検・評価実施委員会

2 自己点検・評価の方法と点検・評価項目

自己点検・評価に際しては、「応用基礎レベル」の質向上の観点から、評価の視点を【学内からの視点】と【学外からの視点】に大別し、さらに、それぞれに下位項目を設定した。

【学内からの視点】

- (1) 「応用基礎レベル」の学修成果について
- (2) 「応用基礎レベル」に関わる授業科目の教育内容・方法の把握と改善支援について
- (3) 「応用基礎レベル」の履修状況の把握と改善について

【学外からの視点】

- (1) 産業界からの視点を含めた「応用基礎レベル」の教育内容・方法について

3 自己点検・評価結果

【学内からの視点】

- (1) 「応用基礎レベル」の学修成果について（添付資料①参照）

- 1) 調査概要と修了要件について

この度、本運営委員会では「応用基礎レベル」における学修成果を把握するため、令

和6年度に引き続き「基礎演習S」および「修了能力認定S」の履修者に対し、アンケートを実施した。「基礎演習S」では学生の理解度および今後の希望を問う設問を設定し、そのうえで「修了能力認定S」のアンケートでは、優れた取り組みを行った学生の抽出作業を行った。

2) 事例紹介に基づく学修成果の把握について

本運営委員会では、ネットワーク情報学部の「修了能力認定S」履修者のアンケート回答の中から、優れた取り組みとして4件の事例を抽出した。以下にその概要を紹介する。なお詳細については、添付資料①P6～P9を参照いただきたい。

ア) 【事例①】～飲料の販売データを用いた内部要因・外部要因の分析～

これは、飲料商品の売上に影響する要因を特定し、季節ごとの商品開発やプロモーション戦略立案の研究に活用した事例である。データ前処理として欠損値補完や不要列削除を行い、R言語を用いてランダムフォレスト回帰モデルを構築し、特徴量の重要度を評価のうえ、気温やパッケージデザインが売上に大きく寄与することを確認した。さらに、可視化や再現性を重視し、実務的なデータ分析スキルを習得した。

イ) 【事例②】～地域課題の可視化と関係人口増加策の提案～

これは、地域の関係人口を増やす課題に取り組んだ事例である。授業で学んだ地域経済分析システムを活用し、データに基づいて課題の根拠を提示した。具体的には、石川県加賀市の人口データを分析し、地域内で問題が顕在化している箇所を特定。その結果を踏まえ、関係人口増加に向けた具体的な解決策を提案した。このプロジェクトを通じて、データ分析を用いた地域課題の可視化と、実効性のある施策立案のスキルを習得した。

ウ) 【事例③】～健康と体調の関連性分析～

これは、人生100年時代における健康状態と体調の関係を分析した事例である。先行研究を踏まえて仮説を設定し、データ収集後に変数選択を行い、重回帰分析や対応分析を実施した。結果として、精神的な不健康が身体的な不調にも影響することを確認した。この取り組みを通じて、授業で学んだ数理・データサイエンスの知識を実際の課題に応用し、仮説検証に基づく意味ある結論を導くスキルを習得した。

エ) 【事例④】～リアルタイム手話認識システムの構築～

これは、手話話者と非手話話者の対話におけるコミュニケーション課題解決にプロジェクトで取り組んだ事例である。カメラ映像からMediapipeを用いて特徴点を抽出し、LSTMモデルを構築することで、リアルタイムで手話を分類・予測する仕組みを開発した。

4 種類程度の手話すら十分に認識できない試作レベルであったが、時間や映像領域の正規化など、さらなる改善点を発見するプロトタイプとなった。この取り組みを通じて、AI 技術を活用した言語バリア解消の可能性を探り、次期プロジェクトへの研究継続につなげた。

オ) 事例紹介のまとめ

これまで見てきた4つの事例では、専修大学 Si データサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）の修了要件科目で学んだ内容を活用し、ネットワーク情報学部が重視する「社会における問題を発見・解決」「人間・社会・多様な文化・価値観・新たな情報技術・関連する学問に関する考慮」「それらに関する知識・技術を自ら学習」を学生自ら体現する好事例といえる。

このことから S コース所属の学生のなかには、当該カリキュラムでの学びを通じて、データサイエンスや AI の基盤的知識を身につけ、自らの興味・関心に基づき技術を応用し、実践的な課題解決を図る力を養っていることが確認できる。今後も「応用基礎レベル」の質向上を図り、Society 5.0 時代における社会を支える人材育成に努める。

3) データサイエンス・AI に関する潜在的な学びの需要について

《Si データサイエンス教育プログラムの学修成果（ネットワーク情報学部）》

専修大学 Si データサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）におけるアンケート結果から、「今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。」との設問項目において、ネットワーク情報学部では肯定的回答率が 76.7% であり、全学平均（70.5%）を上回っている。

また、「基礎演習 S」履修者を対象にしたアンケートでは、設問 1 「データサイエンスに関連した「プログラミング」、「データ表現」、「アルゴリズム」に関する能力が身に付いた。」について、肯定的回答率が 92.2%（令和 6 年度 91.1%）と令和 6 年度と比べても高い結果となった。設問 2 「今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。」では肯定的回答率が 65.6%（令和 6 年度 79.4%）となったが、ネットワーク情報学部においてデータサイエンス、データエンジニアリング、AI に関する潜在的な学びの需要は継続して高く、それに応える様々な施策を検討・実施していく必要がある。

《Si データサイエンス教育プログラムの学修成果（全学（ネットワーク情報学部除く））》

令和 7 年度からは、「情報入門 2」、「情報基礎 II」、「情報システム入門」、「統計入門」および「日本語情報処理 2」の履修者に対しても学生アンケートを実施した。学生アンケートを通じて、Si データサイエンス教育プログラムの学修成果を測定した。評価

尺度は、段階評価（「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「やや当てはまらない」「当てはまらない」とした。設問項目としては、①【意欲】②【理解度】③【推奨度】④【希望】を設定した。

《全学部（ネットワーク情報学部除く）集計の結果 ～単一選択式～》

単一選択式のアンケート結果について、学生の【意欲】を確認するために設定した、設問1「Si データサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。」については、肯定回答率（「当てはまる」「やや当てはまる」）の割合が70%となり、学生がプログラムに意欲的に参加することができた。

続いて、学生の【理解度】を確認するために設定した、設問2「Si データサイエンス教育プログラムを受講することで、代表値（平均値、中央値、最頻値）、分散、標準偏差、相関係数、相関関係と因果関係など統計学の考え方の重要性を理解できた。」、設問3「Si データサイエンス教育プログラムを受講することで、コンピュータによるデータ処理の重要性を理解できた。」、設問4「今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。」については、いずれも肯定回答率が70%を超える結果となった。このことから、本学学生の数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルの理解度については、学修成果に照らしても所期の目的を十分達成したといえる。

続いて、学生の【推奨度】を確認するために設定した、設問5「このSi データサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。」については、肯定回答率が72.0%となり、学生の成長実感とも相まって、本プログラムを高く評価していることが確認できた。

最後に、学生の【希望】を確認するために設定した、設問6「今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。」については、肯定回答率が57.9%となり、過半数ではあるが、他の設問と比べるとやや低い結果となった。

《全学部（ネットワーク情報学部除く）集計の結果 ～記述式～》

記述式のアンケート結果について、**設問7**では、本プログラムにおける学生の評価を確認することを企図して、「Si データサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。」を設定した。本設問は、任意項目であったものの、243名の有効回答数を得ることができた。

学生からフィードバックされた回答については、テキストマイニングを活用してキーワードを抽出することとした。その結果、「学べる」「できる」「役立つ」といった学生の成長実感のキーワードが明確に抽出されたことが、本プログラムの大きな成果であるといえる。

最後に、**設問8**では、本プログラムにおける課題を抽出することを企図して、「Si デー

タサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。」を設定した。本設問は、任意項目であったものの、62名の有効回答数を得ることができた。

学生からフィードバックされた回答については、テキストマイニングを活用してキーワードを抽出することとした。その結果、「知識」「定着」といったキーワードが抽出されたことから、より継続的な学びを求めていることが判明した。

《対象科目別集計の結果》

対象科目別集計では、「情報入門2、情報基礎Ⅱ」、「情報システム入門」、「統計入門」および「日本語情報処理2」の4つのグループの対象科目ごとに、設問1～11の集計を行った。

まず、最も履修者数が多い「情報入門2、情報基礎Ⅱ」においては、設問6以外の設問において、肯定回答率が70%を上回る結果となった。

続いて、経営学部で履修する「情報システム入門」、「統計入門」においては、設問5が全学部（ネットワーク情報学部除く）の肯定回答率に比べて低い結果となった。

最後に、国際コミュニケーション学部日本語学科で履修する「日本語情報処理2」においては、設問2および設問6を除き、全ての設問において、肯定回答率が70%を超えており、全学部（ネットワーク情報学部）の肯定回答率と比べても満足度が非常に高い結果となった。

(2) 「応用基礎レベル」に関わる授業科目の教育内容・方法の把握と改善支援について

令和6年8月27日に文部科学省より全学部全学科の「応用基礎レベル」が認定されたことから、今後はネットワーク情報学部以外でも「応用基礎レベル」修了者が出てくる見込みである。分析結果を「専修大学数理・データサイエンス・AI教育運営委員会」へ共有し、課題について検討を行っていく。並行して、令和8年度に行われるカリキュラム改正に向けて、教育内容や履修率向上を目指す取り組みの推進を行う。

(3) 「応用基礎レベル」の履修状況の把握と改善について

先述のとおり、ネットワーク情報学部ではSコースとDコースの2つのコースを設置している。この「応用基礎レベル」は、Sコースに所属する在学学生を主な対象（Sコース学生数：239名）としており、調査時点における「応用基礎レベル」の修了見込み者は116名（令和6年度：104名）、率にして48.5%（116/239）（令和6年度：41.6%）である。

昨年度に比べ、修了見込み者数が増加し、AI関連科目を受講することの必要性やメリットを学部ガイダンスなどで強調したことが奏功した。

【学外からの視点】

(1) 産業界からの視点を含めた「応用基礎レベル」の教育内容・方法について

応用基礎レベルに相応しい学修内容であるという第一印象を受けました。一方で、授業内容が知識の教授に偏重、換言すれば内容が固定化されている印象があり、学生に失敗経験を積ませることを盛り込んだり、多角的な視点で物事を捉えられるような内容を取り入れたりすることで、より良い学びにつながると思います。

社会人にとっては、結果だけでなく、その結果に至るまでのプロセスが非常に重要です。授業においても、発表や議論の機会を増やすことでアウトプットの訓練が促され、失敗から学べる仕組みを構築できると考えております。

また、大学生には社会人にはない柔軟な発想があります。今後、産学連携等により実践の場を設けられるならば、業務効率化の視点など、学生が持つ独自の見方や知見を生かすことで、これまでとは異なる角度から物事を進められる場面もあると感じます。そうした強みが発揮できるような授業展開が今後行われることを期待しています。

株式会社日刊スポーツ新聞東京本社 システムソリューション本部 システム部長
山口 晃氏

学修成果の事例紹介は、昨年度より内容・手法ともにレベルが向上した印象を受けました。応用基礎レベルの特長は、学生が身の回りの事象を取り上げ、データドリブンで解決する学修経験にあると言えます。題材の選定が難しい部分もあるかと存じますが、ぜひ今後も継続して取り組んでいただき、学生の興味をさらに引き出していただければと思います。

一方で、アンケートの対象科目別集計で「情報システム入門」の設問5「このSi データサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。」が他科目と比較して低い結果となっており、改善の余地があると考えます。学生にとって応用基礎レベルの難易度が高いと感じられている可能性もありますが、レベルを維持しつつも、学生が理解しやすく取り組みやすい内容となるよう努めることで、より良いプログラムになることが期待できると感じました。

キヤノンITソリューションズ株式会社 R&D本部 本部長 今井 太一氏

4 添付資料

① 令和7年度事例紹介（学修成果）報告書【応用基礎レベル】

以上

令和7年度 事例紹介(学修成果) 報告書

【応用基礎レベル】

専修大学 数理・データサイエンス・AI教育
自己点検・評価実施委員会

1. 調査概要と修了要件

調査概要①

- 実施目的：「Siデータサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）」における教育の質向上を図るため
- 対象者：「Siデータサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）」対象科目の履修者
- 調査方法：本学で導入しているLMS（in Campus）によるアンケート調査
- 事例紹介：4件
- 設問数：全8問（うち、単一選択形式（ラジオボタン）6問、記述式2問）

調査概要②応用基礎レベル修了要件

○修了要件は各学部・学科によって異なる。
詳細は、専修大学ホームページ参照

応用基礎レベル
修了要件



【専修大学ホームページURL】

<https://www.senshu-u.ac.jp/education/datascience/advancedliteracy.html>

調査概要③

OSiデータサイエンス教育プログラム(応用基礎レベル)の対象科目

経済学部・・・情報入門2

法学部・・・情報入門2

経営学部・・・情報システム入門・統計入門

商学部・・・情報基礎Ⅱ

文学部・・・情報入門2

ネットワーク情報学部・・・基礎演習S・修了能力認定S

人間科学部・・・情報入門2

国際コミュニケーション学部日本語学科・・・日本語情報処理2

国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科・・・情報入門2

2. 学修成果の紹介

事例紹介① ~アンケート回答より抜粋~

【概要】

POSデータ（販売データ）を用いた売上に影響を与える内部要因・外部要因を分析した。

【取り組み・工夫】

飲料商品の売上に最も影響を与える要因（例：包装タイプ、成分、容量、気温、燃料価格）を特定し、前処理として、`is.na()`と`mean()`や`table()`を用いた欠損値の補完（平均値・最頻値）や、`grep()`での不要列削除などのクリーニング処理を行った。その後、説明変数として「包装タイプ」「成分」「容量」「気温」「燃料価格」、目的変数として「平均売価」を設定し、`randomForest`パッケージを用いてランダムフォレスト回帰モデルを構築した。さらに、`caret::createDataPartition()`を用いたデータのトレーニング・テスト分割、`importance()`による特徴量の寄与度計算、`ggplot2`を用いた可視化なども行い、分析の再現性と可読性を高めた。これにより、各特徴量の売上への影響度を定量的に評価し、気温やパッケージデザインが売上に大きく寄与するという実践的な洞察を得ることができた。

事例紹介② ～アンケート回答より抜粋～

【概要】

地域の関係人口を増やすための分析を行った。

【取り組み・工夫】

授業で学んだ、**地域経済分析システム**を活用し、データを用いて根拠を示した。例を挙げると石川県加賀市の人口データを用いて、「地域のどこに問題があるか」を示し、これを解決するための具体的な解決策を提案した。

事例紹介③ ～アンケート回答より抜粋～

【概要】

人生100年時代における健康状態と体調について分析を行った。

【取り組み・工夫】

先行研究を行い、それをもとに仮説を立てた。仮説にあってデータを収集し、変数の取捨選択を行い、**重回帰分析・対応分析**を作成した。結果として精神的に不健康であると身体にも現れることが分かり、授業で得た数理・データサイエンスの知識を実際の課題に応用し、仮説検証を通して意味ある結論を導くことができた。

事例紹介④ ～アンケート回答より引用～

【概要】

手話話者と非手話話者間に存在するコミュニケーションの壁を解消するモデルを構築した。

【取り組み・工夫】

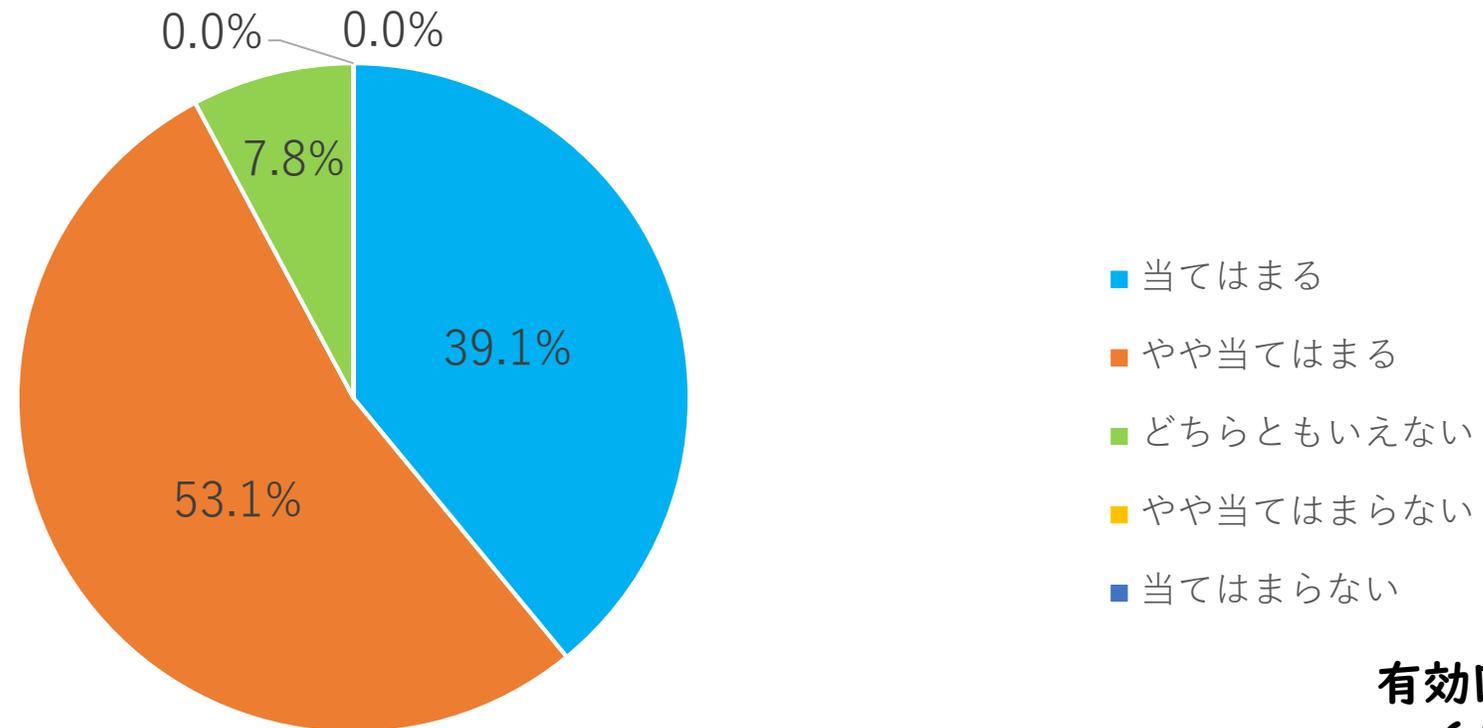
MediaPipeを用いて手話の動作から手の位置や形状の3次元座標（ランドマーク）を抽出し、それをLSTM（長短期記憶）モデルにより時系列データとして解析することで、特定の手話（簡単な挨拶など）をリアルタイムで認識・分類するモデルを構築した。これにより、カメラ前で行った手話が即座に文字や音声で表示され、非手話者に対して意味が伝わるようにした。データ収集・前処理・学習・推論まで一連のデータサイエンスのプロセスを通じて、現実の課題解決に取り組んだ。

3. 学生アンケート回答結果

～2025年度 ネットワーク情報学部
「基礎演習S」履修者対象～

学生の成長実感度は高い。

データサイエンスに関連した「プログラミング」、「データ表現」、「アルゴリズム」に関する能力が身に付いた

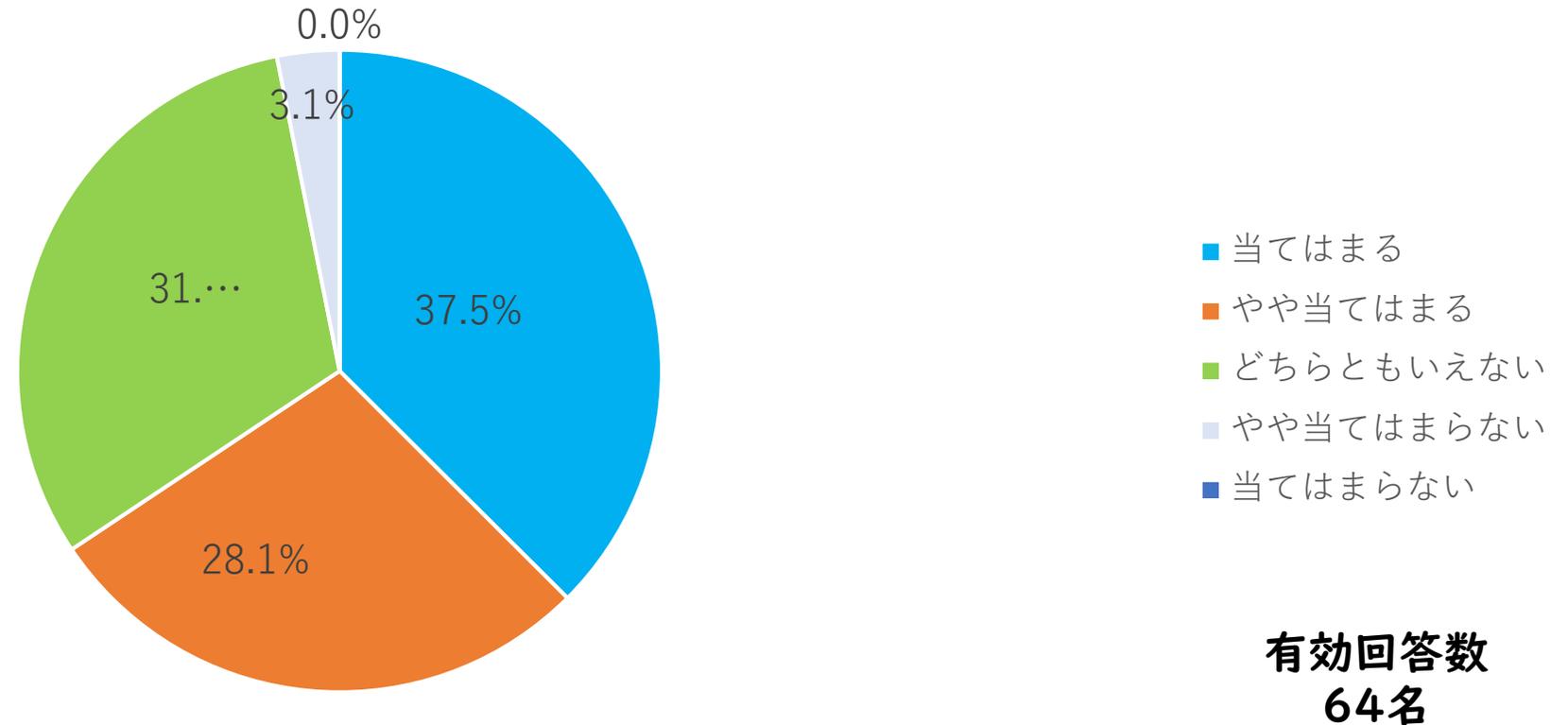


有効回答数
64名

肯定的回答率（当てはまる・やや当てはまる）は92.2%である。

学生の更に高いレベルでの教育を求めている。

今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。



肯定的回答率（当てはまる・やや当てはまる）は65.6%である。

4. 学生アンケート集計結果

(ネットワーク情報学部除く)

設問1～6【単一選択形式】

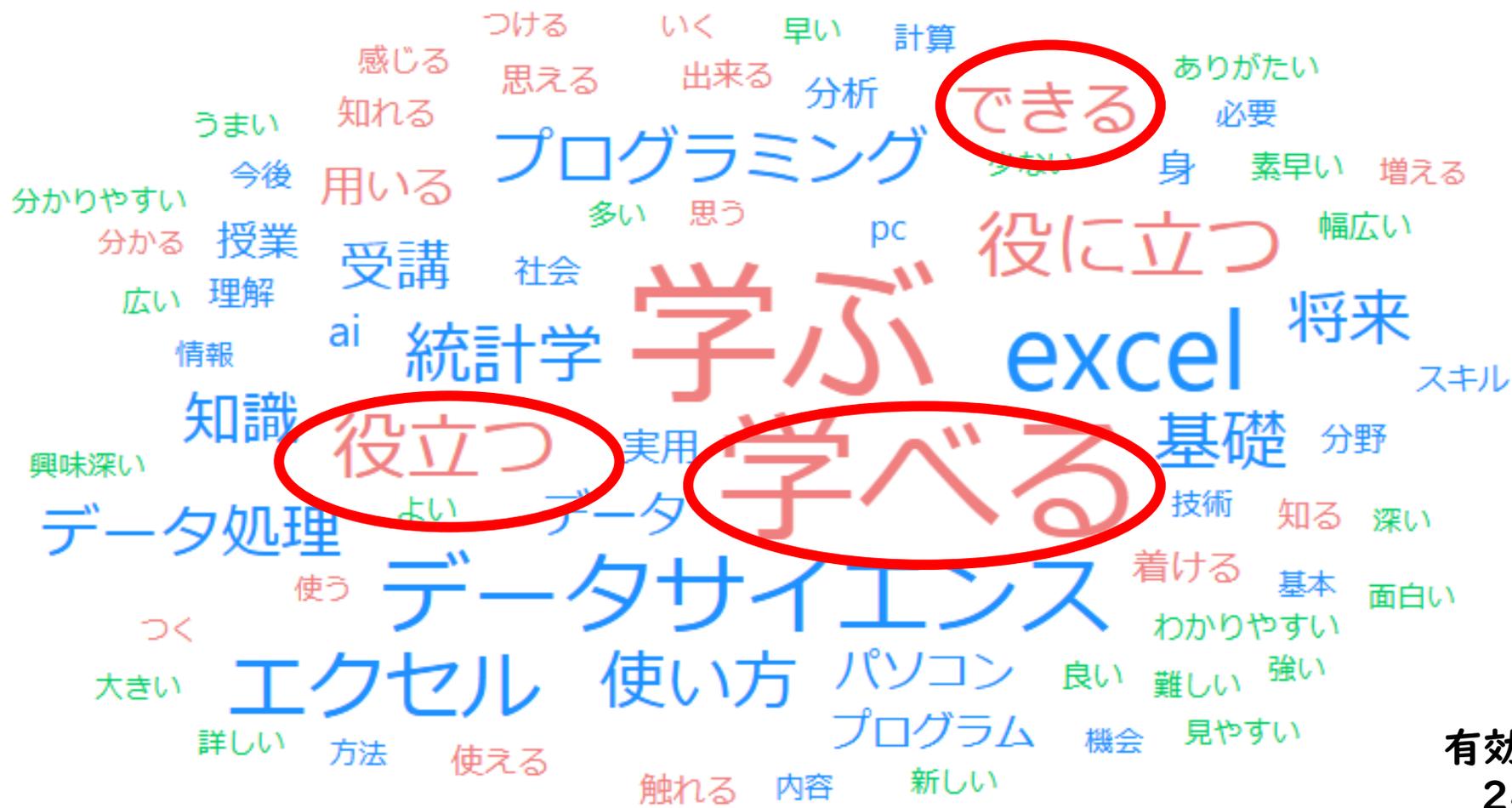
設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、代表値（平均値、中央値、最頻値）、分散、標準偏差、相関係数、相関関係と因果関係など統計学の考え方の重要性を理解できた。
3	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、コンピュータによるデータ処理の重要性を理解できた。
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
6	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6
当てはまる	25.1%	23.1%	36.5%	50.7%	32.7%	19.9%
やや当てはまる	44.8%	49.6%	44.8%	34.5%	39.3%	38.1%
肯定回答率	70.0%	72.7%	81.4%	85.2%	72.0%	57.9%
どちらともいえない	23.4%	18.8%	13.4%	11.9%	21.3%	26.8%
やや当てはまらない	3.4%	4.6%	2.5%	1.1%	3.7%	9.1%
当てはまらない	3.2%	3.9%	2.8%	1.8%	3.1%	6.2%

設問6を除き、肯定回答率が全て70%を超えている。

設問7【記述式】

Siデータサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。



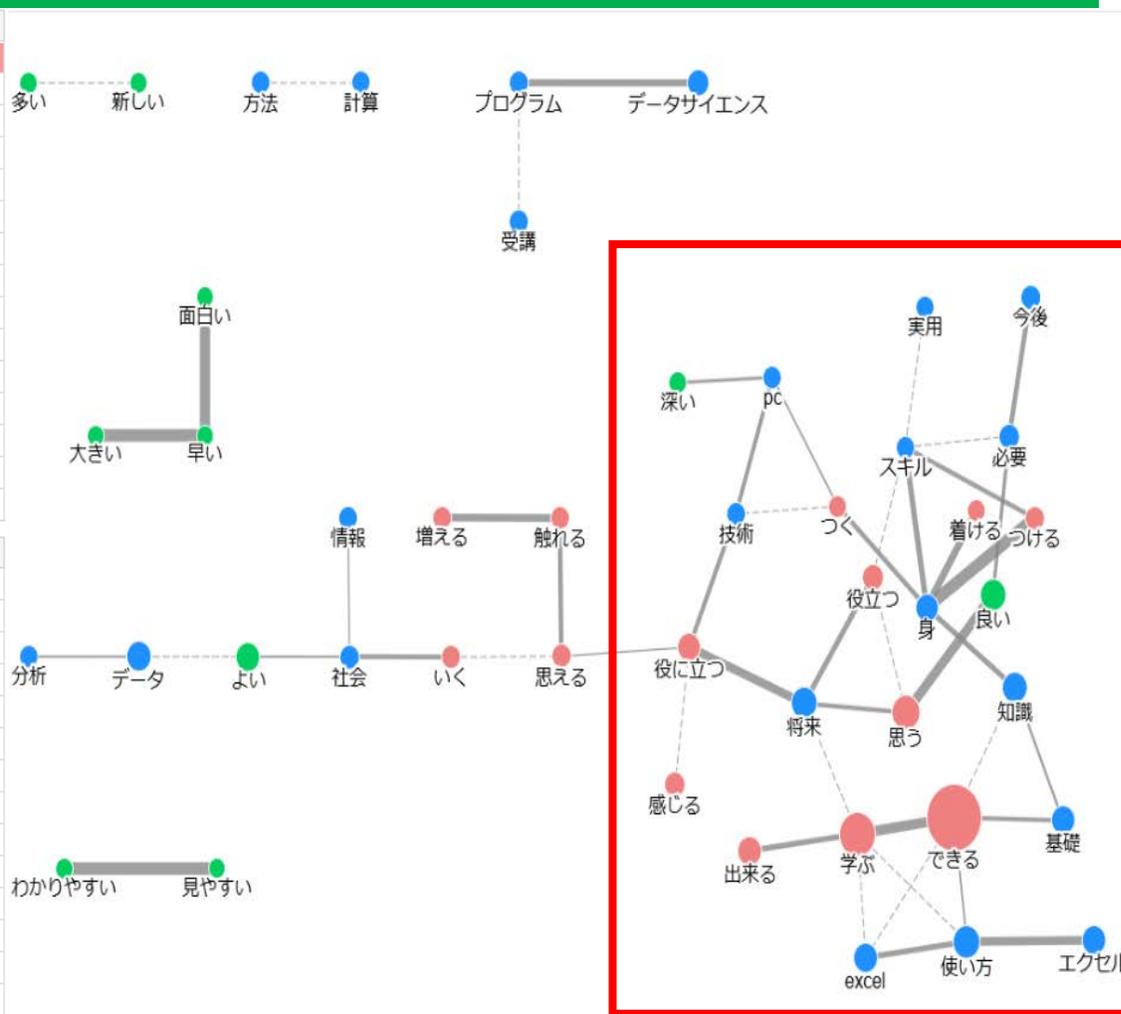
「学べる」「役立つ」「できる」といったキーワードが抽出されたのが、Siデータサイエンス教育プログラムの大きな成果である。

設問7 【記述式】

SIデータサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度
使い方	60.47	42	できる	18.08	122
将来	50.68	38	学ぶ	111.77	63
知識	37.18	35	思う	0.82	38
データ	25.88	33	学べる	98.10	29
excel	192.46	31	知る	1.95	28
パソコン	21.05	31	出来る	1.51	24
エクセル	95.67	30	役に立つ	32.15	21
基礎	64.26	29	使う	0.84	19
授業	15.68	28	役立つ	29.23	16
身	14.20	25	使える	2.47	15
データサイエンス	137.75	21	感じる	1.06	14
理解	6.45	21	思える	1.78	10
プログラミング	54.02	20	つける	0.41	10
必要	2.52	17	いく	0.16	9
今後	4.42	15	触れる	2.05	8

■ 形容詞	スコア	出現頻度	■ 感動詞	スコア	出現頻度
良い	1.21	30	---	---	---
よい	1.20	24	---	---	---
詳しい	0.78	6	---	---	---
難しい	0.29	6	---	---	---
深い	0.54	5	---	---	---
多い	0.07	5	---	---	---
わかりやすい	1.08	4	---	---	---
少ない	0.11	3	---	---	---
新しい	0.08	3	---	---	---
素早い	1.27	2	---	---	---
幅広い	0.96	2	---	---	---
分かりやすい	0.46	2	---	---	---
大きい	0.04	2	---	---	---
強い	0.02	2	---	---	---
面白い	0.02	2	---	---	---



共起ネットワークにおいて、「できる」「知る」「学ぶ」といった学生の成長実感が、AIやデータを含む多様なキーワードと結びついていることが読み取れる。

5. 対象科目別集計

「情報入門2・情報基礎Ⅱ」、「情報システム入門」、「統計入門」および「日本語情報処理2」の4つのグループの対象科目ごとに、設問1～6の集計を行い、全学部集計との比較を行う。

【情報入門2、情報基礎Ⅱ】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、代表値（平均値、中央値、最頻値）、分散、標準偏差、相関係数、相関関係と因果関係など統計学の考え方の重要性を理解できた。
3	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、コンピュータによるデータ処理の重要性を理解できた。
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
6	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6
当てはまる	25.0%	25.0%	37.0%	50.4%	32.5%	19.6%
やや当てはまる	45.2%	51.1%	45.7%	35.2%	40.4%	38.9%
肯定回答率	70.2%	76.1%	82.7%	85.5%	72.9%	58.6%
どちらともいえない	24.3%	18.4%	13.6%	12.1%	20.7%	26.6%
やや当てはまらない	3.2%	3.8%	2.0%	0.7%	3.9%	9.1%
当てはまらない	2.3%	1.8%	1.8%	1.6%	2.5%	5.7%

【全学部】（ネットワーク情報学部除く）

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6
肯定回答率	70.0%	72.7%	81.4%	85.2%	72.0%	57.9%

設問6を除き、肯定回答率が全て70%を超えている。

【情報システム入門・統計入門】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、代表値（平均値、中央値、最頻値）、分散、標準偏差、相関係数、相関関係と因果関係など統計学の考え方の重要性を理解できた。
3	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、コンピュータによるデータ処理の重要性を理解できた。
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
6	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6
当てはまる	7.1%	14.3%	21.4%	42.9%	7.1%	28.6%
やや当てはまる	42.9%	64.3%	28.6%	42.9%	28.6%	21.4%
肯定回答率	50.0%	78.6%	50.0%	85.7%	35.7%	50.0%
どちらともいえない	35.7%	7.1%	21.4%	7.1%	42.9%	42.9%
やや当てはまらない	7.1%	14.3%	21.4%	7.1%	14.3%	7.1%
当てはまらない	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%

【全学部】（ネットワーク情報学部除く）

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6
肯定回答率	70.0%	72.7%	81.4%	85.2%	72.0%	57.9%

設問5を除き、肯定回答率が過半数となった。

【日本語情報処理2】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、代表値（平均値、中央値、最頻値）、分散、標準偏差、相関係数、相関関係と因果関係など統計学の考え方の重要性を理解できた。
3	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、コンピュータによるデータ処理の重要性を理解できた。
4	【理 解 度】 今のA Iで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
6	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に着け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6
当てはまる	29.3%	10.7%	36.0%	54.7%	38.7%	20.0%
やや当てはまる	42.7%	36.0%	41.3%	28.0%	33.3%	34.7%
肯定回答率	72.0%	46.7%	77.3%	82.7%	72.0%	54.7%
どちらともいえない	14.7%	24.0%	10.7%	10.7%	21.3%	25.3%
やや当てはまらない	4.0%	9.3%	2.7%	2.7%	0.0%	9.3%
当てはまらない	9.3%	20.0%	9.3%	4.0%	6.7%	10.7%

【全学部】（ネットワーク情報学部除く）

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6
肯定回答率	70.0%	72.7%	81.4%	85.2%	72.0%	57.9%

設問2及び、6を除き、肯定回答率が全て70%を超えている。



 **SENSHU UNIVERSITY**

 社会知性の開発をめざす
専修大学



社会知性の開発をめざす
専修大学